

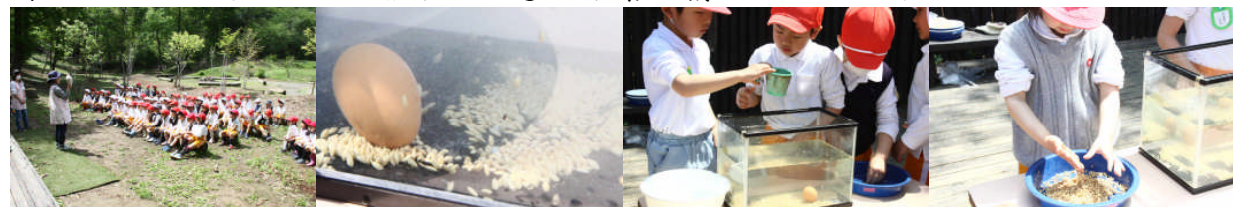
～里山の萌芽更新～

森の広場から続く「八王子市の森」、この一区画の樹木約50本を1年前に伐採しました。里山の樹林が高齢化し、次の若い樹林を形成するために必要な萌芽更新と呼ばれるものです。本来15～20年おきに行われますが、更新作業が行われてこなかったため、樹齢60年以上の巨木も見られます。日が差して新芽が喜んで伸びゆく様子もみられ、人と自然とが関わり合い形成してきた里山本来の姿に戻りつつあることを実感します。伐採から1年、切り株から新芽がぐんぐんと伸びています。こうした様子を年長さんは間近に観察しています。切り株に手を当て年輪を数え、萌芽を探します。この里山には「生きた教材」が無数にあります。見て、触れて、感じて、考えて、調べて、話し合う・・・「学びに向かう力」の基礎を、遊びや体験を通して育んでいるのです。



～年長 お米作りスタート「種もみ選び」～

森のステージに集まり、8ヶ月にわたるお米作りがスタートしました。昨年とっておいたお米の種もみを選別し、水槽に卵が浮くぐらいの塩水を入れたらそこに種もみを入れます。水に浮いた種もみは使用せず、沈んだ種もみを使用します。理科の実験のようですが、子ども達は塩を入れることで卵が浮く様子に、「マジックだ!」と驚きの様子で観察しています。水に沈んだ種もみは真水につけて数日間芽出しをし、育苗箱に蒔いていきます。こうして稲作の地道な作業が続いていきます。



～学年の様子についてお知らせします～

☆年少さん・・・

新入園のお子様も園生活に徐々に慣れ始めたことでしょうか。しかし、お子様によっては環境の変化に一生懸命慣れよう、ついていこうと気を張るあまりに、疲れが出たり大泣きをしたり、これまでになくお母様に甘えたりするといった反動が現れてくる時期です。

特に午後保育も始まり、これまでの家庭生活とのギャップに身体も心も少しずつ疲れを感じる頃、帰宅後は心身共に十分に休息を取り、ご家庭の温かな愛情で包んであげてください。また、併せて毎日幼稚園に頑張っているお子様をほめていただき、5月、いよいよ広がりを見せる園生活に前向きに取り組めるよう励ましてあげてください。

なお、ゴールデンウィークには家庭で親御さんの愛情をたっぷり受け、明けには「家にいたい、幼稚園に行きたくない」といった声も聞かれるかもしれません。4月上旬の様子に戻ってしまうお子さまも多くいらっしゃいます。慌てずにゆっくりと見守っていきたいと思いますので、お子様の様子に変化などがありましたらどうぞ担任までお知らせ下さい。

道灌山学園の故高橋圭吾氏の言葉を紹介いたします。参考になさってください。

☆ほめ方

- ①本気でほめる。べたほめは効果がない。
- ②人がいてもいなくてもほめる。
- ③ほめるもとは何かはっきり言う。
- ④ほめられる人の立場でほめる。
- ⑤ほめる言葉を口ぐせに 「ごくろうさん」「ありがとう」

☆叱り方

- ①腹を立てて叱るな、怒るのは効果がない。
- ②叱られる身になり、あやまちは叱るな。
- ③叱る言葉は少なく、くどくど叱るな。
- ④叱ってはならない時がある（食事の前後、登園前、就寝前）

☆注意することよりほめること七題

- ①物言えば 注意の言葉 多く出て 叱り言葉と まちがえられる。
- ②幼児には 注意を多く していれば よい子になると 思うまちがえ
- ③よい時に しっかりほめる 事がよい ほめられただけ よい子になれる
- ④子育ての 上手の仕方 身につけて よい事見つけ 忘れずほめる
- ⑤悪い子に なりそうな時 手伝いを しっかりさせて たくさんほめる
- ⑥注意より ほめることには 効果あり 身近のことを たくさんほめる
- ⑦ほめること 叱ることとを 比べると ほめる効果は 何倍もある

※言うまでもありませんが、「叱るべき時に何も叱らない」ことはもったいけません。何事もバランスが大切です。

☆年中さん・・・

年中さんは、年少さんとの環境の変化に戸惑いを見せ不安になったり、活動の幅が広がるとともに友達との関係が深まっていく過程で、今までと違った様々なケンカも出てくる時期です。幼稚園生活3年間の中で、最も難しくまた大切な時期であるといっても過言ではありません。しかし、この時期の様々な葛藤が成長の証でもあり、周囲の大人が無理にこども同士の間を離したり、避けてやり過ごすことは、子どもたちにとって何の解決にもなりません。子ども自身が正面から取り組み、頑張っている姿を見守り、勇気づけ、そっとサポートしていくことが大切と考えます。我々保育者も子ども達の「自分で向き合い、乗り越えようとする力」を信じサポートして参ります。

☆年長さん・・・

幼稚園生活を通して大きく花開く時期。特に2学期の運動会、3学期の生活発表会のように、クラスの皆で力を合わせて何かを成し遂げるといった協同的活動が活発になり、その過程では協調性や思いやりなどを伴った“集団における問題解決能力”が大きく育っていきます。

また、身体能力と並行して、「少しのことでへこたれない」精神的な強さ、逞しさ、忍耐力が育ってきます。更に、自然の変化や、生き物等への関心も、感覚的に捉えるだけでなく、科学的な視点から観察したり、探求心を持って調べたり、自分なりに筋道をたてて考えることができるようになります。こうして徐々に小学校へ向けた土壌が完成されていきます。

子ども達の伸びようとする可能性を信じ、勇猛果敢にチャレンジする精神を応援しながら、活発な園生活を促してあげたいと思います。

